

あの日あの頃 - 9

創立のころ

新井勝夫

第三十五回の運動会が無事に終わり、今は、十月十四日の音楽会に向けて、子供達の元気な歌声が聞こえてきます。相変わらず、活気に溢れたドン・ボスコの子供達です。

私が初めて星美の門をくぐったのが昭和四十一年四月。あれから、もう二十数年が過ぎてしまいました。「十年一昔」といいますので、もう、「二昔」になるわけです。通用門に入り、正面玄関まではプラタナスの木が並び、校庭のマリア様はしゅろの木で囲まれていました。プラタナスやしゅろの木は姿を消しましたが、マリア様は変わらず子供達を見守ってくれています。マリア様に守られ、子供達と共に過ごした二十数年は、いろいろな事がありました。

何しろ、学校を出て、すぐに四十名程の子供達を任される訳ですから大変です。教わる側から教える側への立場が全く逆になることの難しさ。また、父母会等では、自分よりも、社会的にも、人間的にもすぐれた方々が「 ですよ。よろしく。」と頭を下げられる度に、「これは、大変なことだぞ。」と、改めて事の重大さを感じたものでした。

始めは、二年生(十二期生)の男子の担任をしました。同じ学年を組んだシスター古平、田中温子先生に教えていただきながらの毎日でした。初めての清掃の日、前日、学年会で十分に打ち合わせをして望んだのですが、子供達は、ほうきや雑巾を持っただけで、ただうれしくて有頂天。教室は蜂の巣をつついたような騒ぎで、こちらの台本通りには動いてくれず、完全にギブ・アップ。「きょうは中止です。すぐに帰りの支度をしましょう。」キョトンとする子供達でした。さっきの騒ぎがうそのように静かになった教室で一人黙々と掃除をしながら、「こりゃ、大変だぞ。」と心に言い聞かせるのでした。こんな先生に二年間もつき合った子供達にはただ、頭が下がるだけです。

当時も今も、ドン・ボスコの「子供とともに。」という精神は変わりませんが、当時の方が子供と一緒に時間がずっと長かったように思われます。先生も児童と今のように忙しくなく時間的にゆとりがあったからでしょう。中学受験はあったものの、塾通いも今ほどではありませんでした。特に、土曜日の午後の校庭は子供達の天国でした。

お昼のお弁当を持参し、剣道やサッカー、ソフトボール等、日が暮れるまで、汗を流したものです。ドン・ボスコが大切にしたい三つの場の一つである校庭を思う存分使いました。

この頃は、創立十年が過ぎ、学校が大きく変わっていった時期でした。心身ともにたくましい子どもにという願いで、アシジョリーナ校長様、シスター・ドメニカ杉村が中心になって進められました。五・六年生のクラブ活動は、男女共、各々三つの運動クラブに全員が入り、体力向上に励みました。また、校外学習では三年生から六年生が縦割りに分け、鎌倉天国、大楠山、大山等に行き、クラスの絆をはずし、上級生と下級生が仲よく楽しい秋の一日を過ごしました。

合宿生活では、いろいろな試みを重ね、今の合宿の基になりました。自然の厳しさ、美しさを味わうために、二月に冬期校外学習を行いました。三年から六年までが富士山周辺で雪遊び等を通して冬の厳しい寒さを体験しました。夏の林間学校では水遊びをした山中湖が全面結氷し、長靴ですべったり、しりもちをついたり湖上で歓声をあげました。

たくましい男の子ということで、五、六年生の男子は錬成会という一週間の合宿をしました。体力作り、鍛練が中心ですから、合宿のプログラムもトレーニング優先。まるで、オリンピックの強化選手並みのハードなものでした。起床後のランニング、朝食後のサーキットトレーニング。真夏の太陽の下で、汗と泥にまみれての毎日でした。

何しろ、トレーニングのプログラムを作るのが林田先生。今でこそ人並みの体力ですが、当時は大学を出たばかりで若さに溢れ、ありあまる体力で子供をリードしていくのですから、子供達にとっては恐怖だったのでは.....。

子供達と先生が寝食を共にし多くのことを学んだと思います。

今年の運動会は、紅白同点引き分けに終わりましたが、運動会でも楽しい思い出があります。

前夜からの雨が朝方になって止み、先生方が早朝から集まってのグラウンド整備の始まりです。

役員の子供達も朝早くからきて、学校中のバケツ、ほうき、雑巾等を持っての人海戦術で必死の作業を続けました。隣のダルフィオール神父様までもいらして下さり、イタリア人特有の陽気さで、みんなを励まし、元気づけてくれました。本場仕込みのテノールで「ダイジョウブ、ダイジョウブだよ。東の空の雲が切れてきたからダイジョウブ。」自ら、ほうきを持ち、グラウンドいっぱい響かせます。我々よりも数段神様に近い方のお言葉ですので効果てき面、やがて、薄日まで差し込み、開会へこぎつける程でした。子供達と先生が一つになって取り組んだ楽しい思い出でした。

子供達の体力作りばかりでなく、学力をつけることにも全職員で取り組みました。

基礎学力をつけていく上で、大切なものは何か、暮れもおしつまった冬休みの一日、全職員で話し合い、三年間の国語研究を始めました。担任だけでなく、体育、音楽、図工、英語科等、専科の先生も一丸となって取り組みました。当時、駒場小の校長先生でいらした田中先生(後に、本校の教頭)に指導をしていただきながら、定期的に続けました。夏休みには、山中林間で宿泊研修をし、朝から夜までびっしりやったものです。

教師になって、二、三年目の私には、楽しく、勉強することができました。先輩の先生方は大変だったでしょうが.....。

土台作りが終わり、成長期に素直で明るい子供達と一緒に学校作りに参加できたことをうれしく思います。この頃の子供達の二世が、ここ二、三年、毎年の様に入学してきます。

卒業生という心強い、ご父兄に支えられ、これからも本校が益々発展すること願いながら、今後共、子供達のためにがんばっていきたくて考えております。

【同窓会報、第9号・平成2年1月1日発行 から転載】